

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.8
Q1 室内環境			0.40					3.5
1 音環境		3.0	0.15	3.6	1.00			3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	4.7	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	5.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	5.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20			
管理部門の床についてはタイルカーペットを使用								
2 温熱環境		3.1	0.35	3.0	1.00			3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43			
4 ゾーン別制御性		4.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
2.3 空調方式								
3 光・視環境		3.9	0.25	3.9	1.00			3.9
3.1 昼光利用		5.0	0.30	4.2	0.30			
1 昼光率		5.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		5.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		4.0	0.30	5.0	0.30			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		4.0	1.00	5.0	1.00			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
診察室など:照度500ルクス~700ルクス程度								
照明制御盤の設置								
4 空気環境		4.2	0.25	3.8	1.00			4.1
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質		4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		4.0	0.30	3.6	0.38			
1 換気量		4.0	0.50	4.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		4.0	0.50	4.0	0.33			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御		5.0	1.00	-	-			
全館禁煙								
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.9
1 機能性		4.0	0.40	4.4	1.00			4.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0	-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-			
3 バリアフリー計画		4.0	1.00	-	-			
誘導的基準をクリアする内容								
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.5	0.40			
1 広さ感・景観		3.0	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50			
リビング的な生活空間、落ち着いた色合いの内装								
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		5.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
防汚性の高い(ノワックス対応)床材を採用等								
十分な洗い場、掃除具入れ、排水経路、照度などを確保								
2 耐用性・信頼性		3.7	0.31	-	-			3.7
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-			
1 耐震性		4.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
基準法の1.25倍を確保								
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		5.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			
ビニルクロス of 更新期間約10年								
必要に応じて、ガルバやSUSダクトを利用								

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	電気・ガス熱源の併用、重要系統の外調機の二重化	4.4	0.19	-	-	-
	2	給排水・衛生設備	汚水槽の設置、受水槽・高架水槽を2基の水槽に分割	5.0	0.20	-	-	-
	3	電気設備	非常用発電機・無停電電源設備の設置、重要系電源の二重化	5.0	0.20	-	-	-
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
	5	通信・情報設備	通信手段の多様化、精密機械の地上階設置	4.0	0.20	-	-	-
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>4.0</b>	0.29	<b>3.8</b>	1.00	<b>4.0</b>
3.1 空間のゆとり				<b>4.6</b>	0.31	<b>4.6</b>	0.50	
	1	階高のゆとり	階高4.0m以上を確保	5.0	0.60	5.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	個室への変更にも対応	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり	診察室などは3500N/m <sup>2</sup> 以上確保			<b>4.0</b>	0.31	<b>3.0</b>	0.50	
3.3 設備の更新性				<b>3.6</b>	0.38	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	5	設備機器の更新性	重要系統の機器の二重化など機能維持に配慮、更新ルート、スペースの確保し建物機能を維持しながらの更新が可能	5.0	0.22	-	-	
	6	バックアップスペース	重要系統の空調機器は複数台設置、最低限の機能維持に配慮	4.0	0.22	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
周辺の農作物への日陰の影響に配慮した平面配置計画								
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
エントランス周りに神奈川県産小松石使用、市役所からの眺望良し								
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			<b>4.0</b>	0.50	-	-	
敷地内に緑地を確保し歩行者の遮熱観光を緩和								
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 建物の熱負荷抑制</b>				<b>3.9</b>	0.30	-	-	<b>3.9</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
2.1	自然エネルギーの直接利用			<b>4.0</b>	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
トップライトによる自然採光、自然通風採用								
<b>3 設備システムの高効率化</b>				<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)				3.4				
集合住宅の評価				3.0				
ERR=9.1%								
<b>4 効率的運用</b>				<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
4.1	モニタリング			<b>4.0</b>	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			<b>4.0</b>	0.50	-	-	
BEMSによるエネルギーモニタリングシステム								
基本計画書の策定								
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>3.4</b>	0.15	-	-	<b>3.4</b>
1.1	節水			<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>3.2</b>	0.63	-	-	<b>3.2</b>
2.1	材料使用量の削減			3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.24	-	-	
ユニット機器等の利用								
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>3.8</b>	0.22	-	-	<b>3.8</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用			<b>5.0</b>	0.32	-	-	
化学物質排出管理促進法の対象物質を含まない建材が4以上								
3.2	フロン・ハロンの回避			<b>3.3</b>	0.68	-	-	
	1	消火剤		4.0	0.33	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
使用していない								
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
2.1	大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
屋上緑化率 13.95%								
2.3	地域インフラへの負荷抑制			<b>3.7</b>	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制		5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		4.0	0.25	-	-	
機能別に動線を分離								
分別ゴミを前提とした運用								
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害・砂塵・日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
周辺への日影の影響を最小限に縮小								
3.3	光害の抑制			<b>1.6</b>	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
	2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	
深い庇によりグレアは発生しない								